

こんにちは 牛越です

【第161回】
能登半島地震と
松糸道路



大町市長 牛越徹

昨年末は雪が少なく比較的穏やかに推移しましたが、新年を迎えた元日の午後4時過ぎ、石川県能登地方を震源とし、最大震度7を記録する大規模な地震が発生しました。能登半島では、家屋やビルの倒壊、津波や大火災、交通途絶など大きな被害に見舞われ、多くの尊い命が失われました。お亡くなりになりました方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災地の皆様にお見舞い申し上げます、一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。大町市内では美麻、八坂地区の震度は4、市役所と図書館に設置している震度計では3を観測しましたが、被害は確認されませんでした。

被災地への支援は、災害派遣医療チーム(DMAT)が翌日出動し、市立大町総合病院からは、医師はじめ6名のチームが七尾市を拠点として医療活動を展開し、その後も継続的な医療支援を実施しました。北アルプス広域消防本部からは救急隊、支援隊を派遣して救急活動を行い、その後も4次にわたって活動を継続しました。

市では、被災地と連絡を取り、要請をもとに糸魚川市や姉妹都市の富山県氷見市に対し、飲料水や生活必需品を緊急搬送しました。

殊に、道路網が甚大な被害を受けた珠洲市へは、民間団体の協力により、ヘリコプターによる搬送を行いました。また、商工会議所青年部やライオンズクラブ、青年会議所など、市内からの支援も相次ぎました。

その後、近隣各県が連携して組織的な人的支援を行う「対〇〇支援」の体制が組まれました。対〇〇支援は、大規模災害の際に自治体間の支援に偏りが生じないように、都道府県と被災自治体をペアにして、職員派遣など効果的な復旧復興を図るものです。本県では「チームながの」として県と市町村が一体となり石川県羽咋市、輪島市を担当することになり、当市は、羽咋市へ先月中旬以降、災害廃棄物処理や家屋調査などの対応に2名を派遣しました。さらに、ライフラインの水道、下水道の復旧支援に全国協会からの要請により、2名を派遣しました。

また、被災された方々の県外などへの2次避難の受け入れのため、公営住宅10戸を確保しています。

被災地では応急仮設住宅の建設なども始まりましたが、広範な被災地の復旧、復興には、被災された方々のケアなどを含め、相当の期間がかかることが想定されます。

市としても、今後も息の長い支援に力を尽くしてまいります。市民の皆様にも義援金などを通じて被災地のご支援にご協力いただきますようお願いいたします。

さて、松本糸魚川連絡道路の市街地区間のルート帯の決定につきましては、13日、市民説明会がサン・アルプス大町で開催されました。前日からの雪にもかかわらず、満席となる170人もの皆様にご参加いただきました。県からの説明に続き、会場からのご質問について説明し、会場からのご質問にお答えしました。ご意見の中には、能登半島地震で救援に欠かさない緊急輸送路が被災し、支援が滞っている状況に関連して、災害に強い道路インフラの必要性を指摘する声もありました。

これまでの県の三つのルート帯案の比較評価で、インターチェンジが市街地に近く、市が進める集約型都市構造の形成に寄与するなど、優位性が高いとされていたルート帯が正式に決定され、いよいよ事業の実施に向けてスタートラインに着くことになりました。

今後、沿線地区の皆様への丁寧な説明に努め、できるだけ早期の着手を目指し、事業の推進に力を尽くしてまいります。